

「武蔵小杉駅周辺高層マンション住民の避難行動等に関する調査」

速報版

<調査の目的>

武蔵小杉駅周辺地域エリア防災計画の改定に向けて、武蔵小杉駅周辺の高層マンション住民が発災時に取る避難行動や備蓄に関する基礎データの収集・分析を行うことで、現行の武蔵小杉駅周辺エリア防災計画の課題を明確にすることを本業務の目的とする。

<調査設計・回収結果>

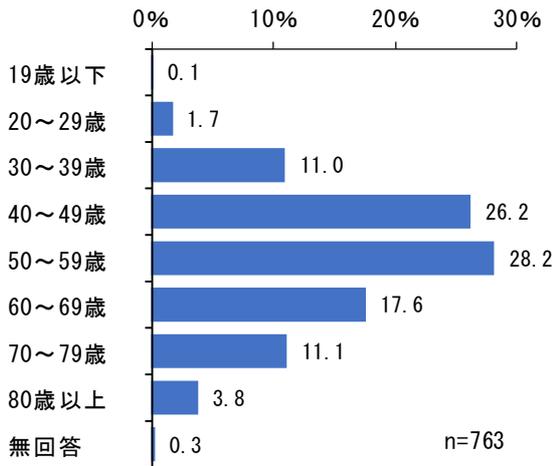
調査対象	武蔵小杉駅周辺の高層マンションにお住まいの満18歳以上の世帯主1,500人
抽出方法	無作為抽出法
実施方法	郵送配布・郵送又はWEB回収
実施期間	令和6年12月
回収結果	763件(50.9%)

<概要版の見方>

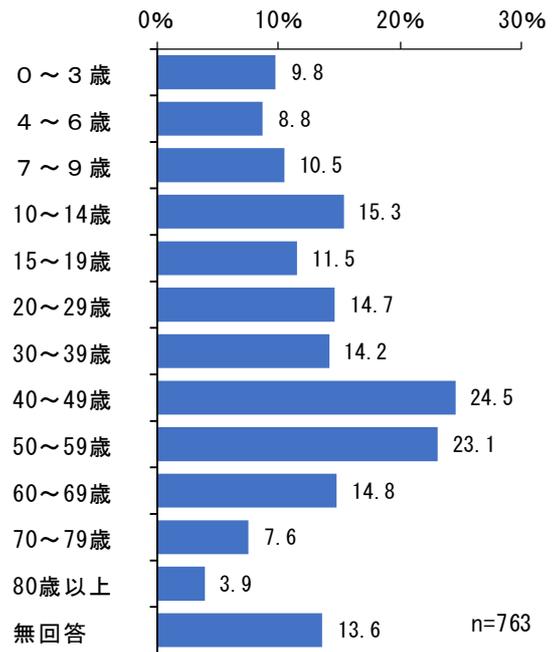
- ・ 図表中の「n」(number of case の略)は、各設問の回答者数を示し、比率算出の基数である。複数回答の設問では、すべての比率を合計すると100.0%を超える。
- ・ 調査結果の比率は、小数第2位を四捨五入して算出した。そのため、すべての比率を合計したときに100.0%にならないなど、各項目の比率と、その合計が一致しないことがある。
- ・ 図や文章中の選択肢の表記は、場合によっては語句を一部簡略化して示しています。

<回答者の属性>

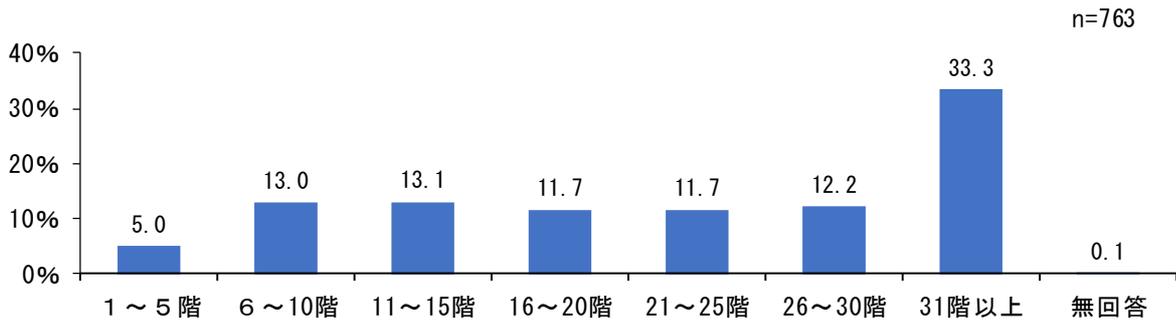
■ 回答者の年齢



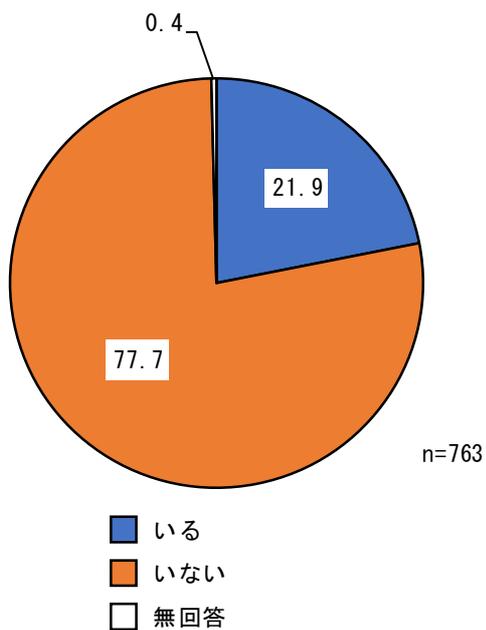
■ 同居者の年齢



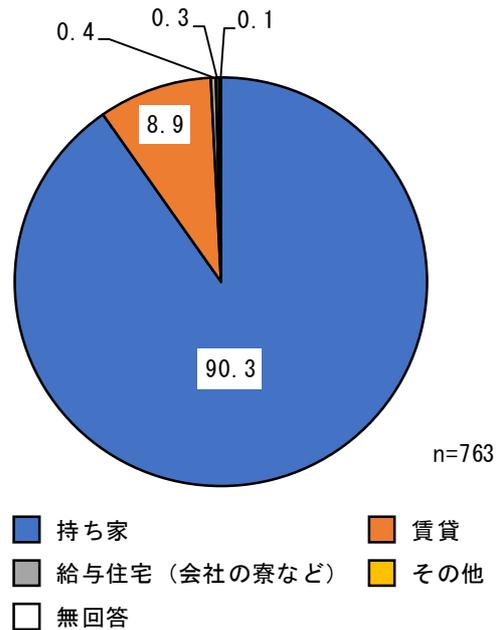
■ 高層マンションでの居住階数



■ 地震発生時の行動に不安がある方の有無

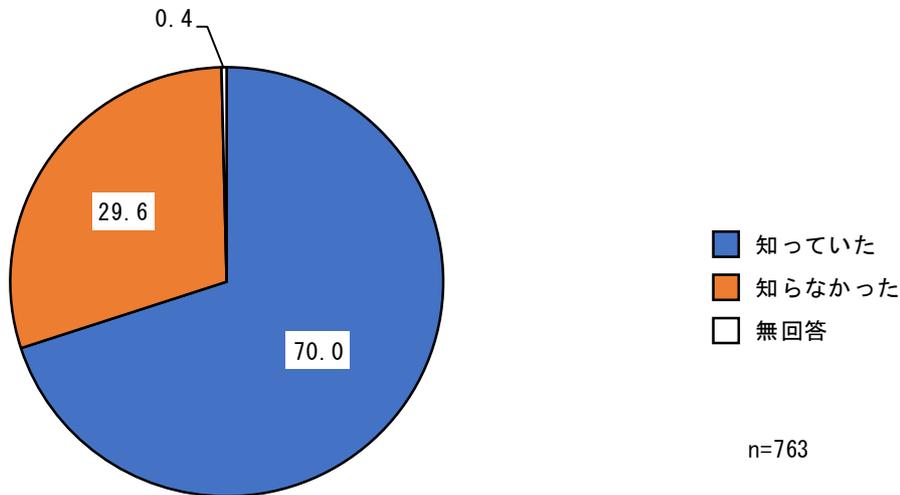


■ 居住形態



★「在宅での避難推奨」の認知度

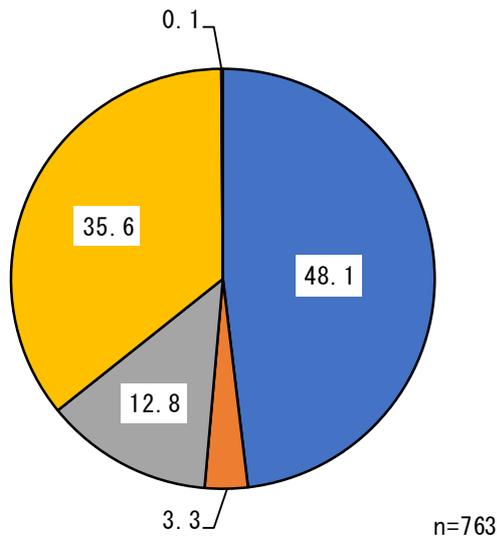
「在宅での避難推奨」の認知度は、「知っていた」が70.0%、「知らなかった」が29.6%となっています。



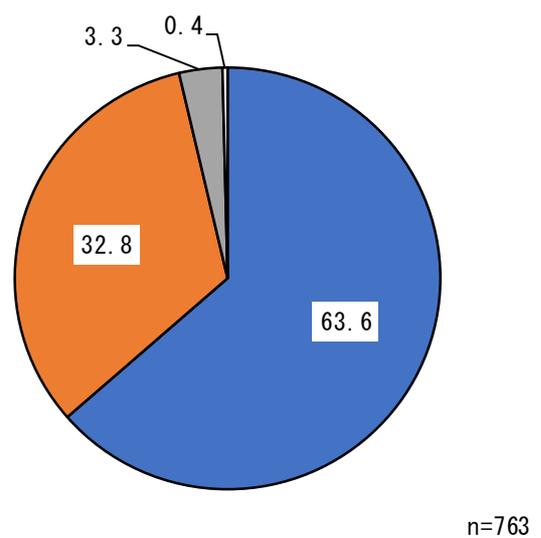
★自宅のある階までの階段での上り下り

自宅のある階までの階段での上り下り経験は、「上り下り両方ある」が最も多く、48.1%となっています。震災時、自宅のある階まで荷物を持って階段の上り下りは、「できる」が最も多く、63.6%となっています。

■ 自宅のある階までの階段での上り下り経験



■ 震災時、荷物を持って階段の上り下り



■ 上り下り両方ある ■ 上りのみある
■ 下りのみある ■ ない
□ 無回答

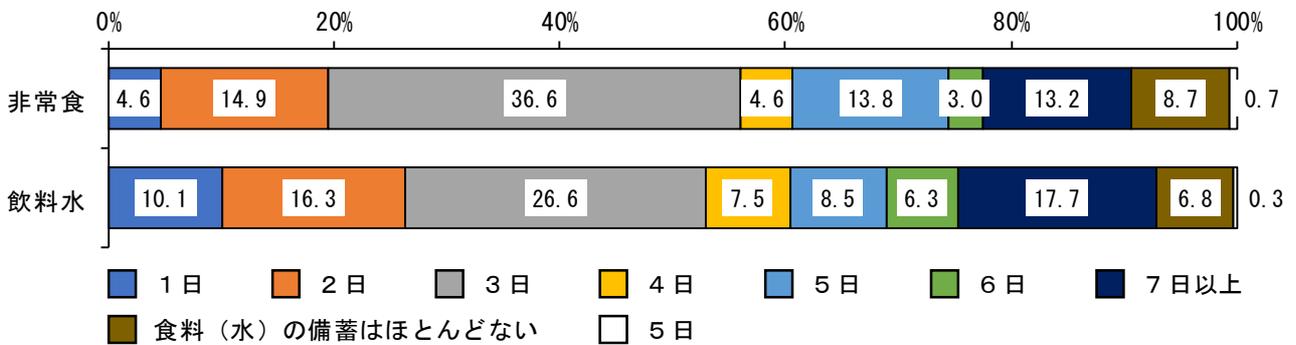
■ できる ■ できない
■ その他 □ 無回答

★非常食、飲料水の備蓄量

非常食の備蓄量は、「3日」が最も多く、36.6%となっています。

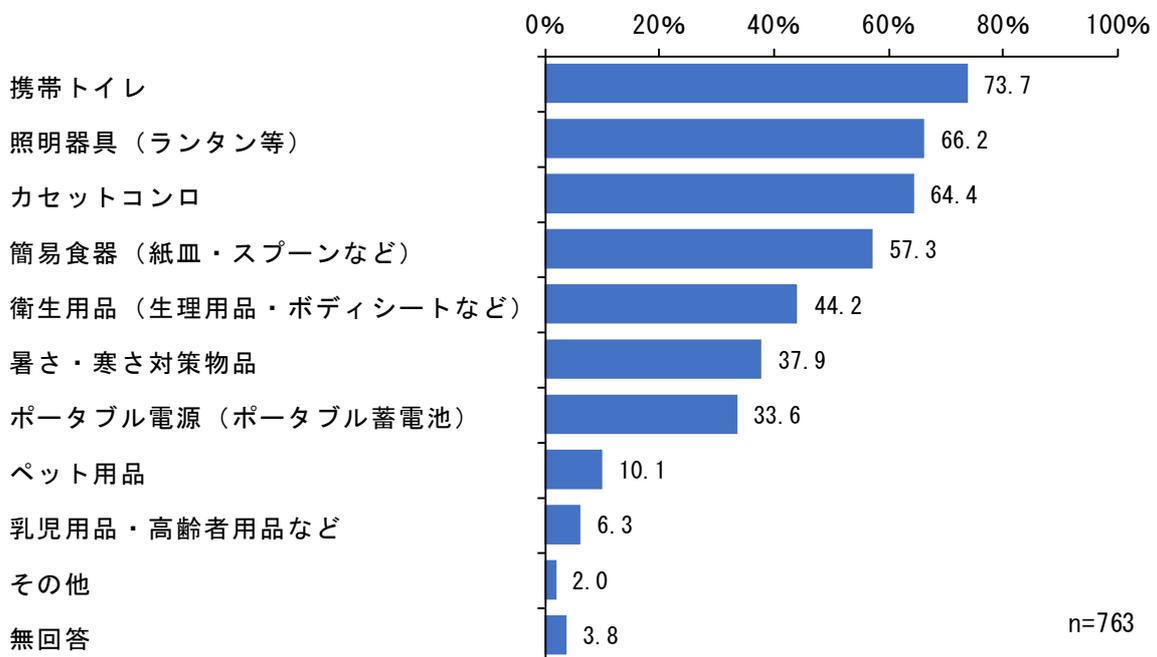
飲料水の備蓄量は、「3日」が最も多く、26.6%となっています。

n=763



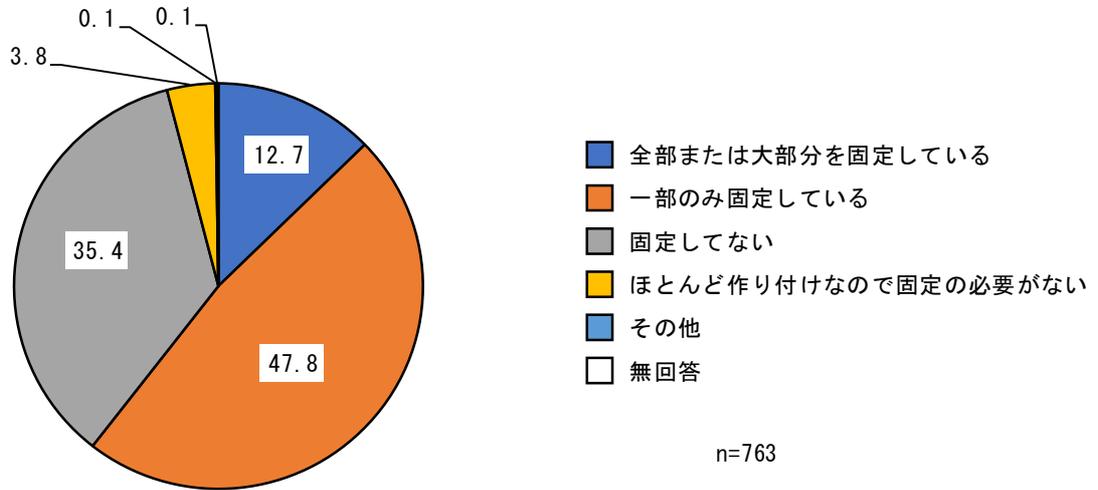
★水・食料以外の備蓄

水・食料以外の備蓄は、「携帯トイレ」が73.7%で最も多く、次いで「照明器具（ランタン等）」が66.2%、「カセットコンロ」が64.4%となっています。



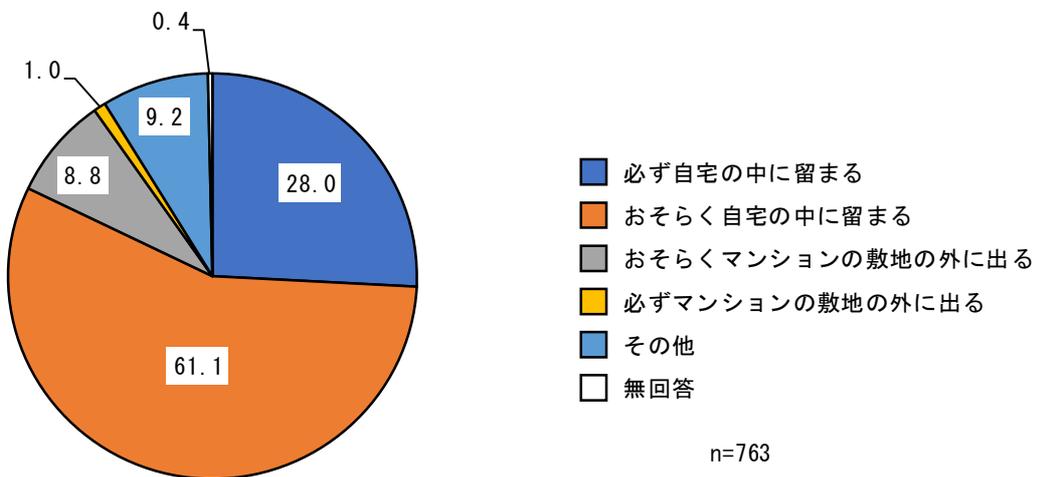
★家具や棚、家電類などの固定状態

家具や棚、家電類などの固定状態は、「一部のみ固定している」が最も多く、47.8%となっています。また、「一部のみ固定している」、「固定していない」を合わせると、83.2%となっています。



★地震発生から1時間後の行動

地震発生から1時間後の行動は、「おそらく自宅の中に留まる」が最も多く、61.1%となっています。



(以下の状況を想定した回答)

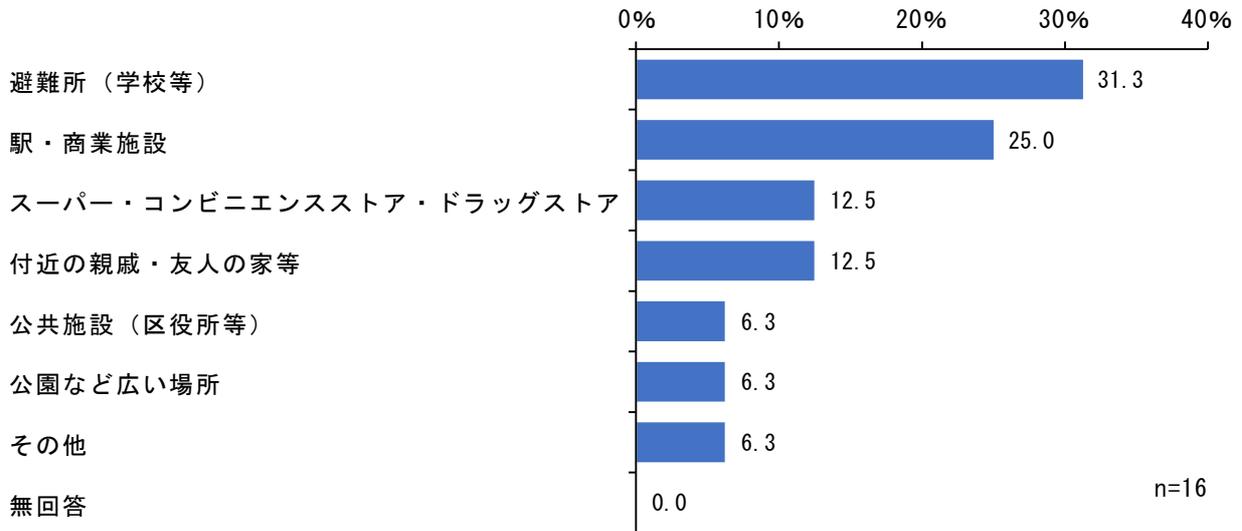
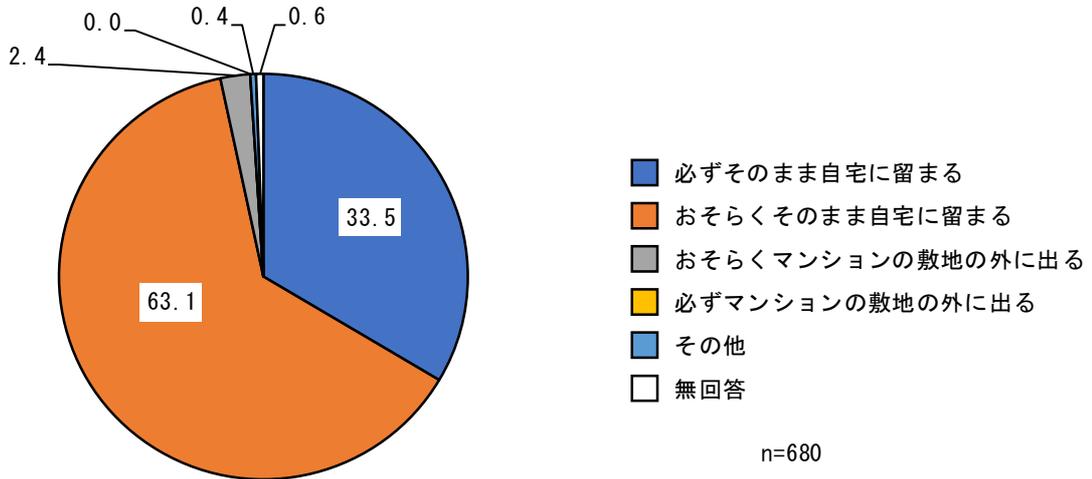
平日の19時ごろ、あなたが自宅にいる時に大きな地震が発生しました。余震が継続的に発生しており、高層階では、長周期地震動※により、長時間船に乗ったときのような揺れが続いています。あなたは緊急地震速報を聞いてとっさに身を守る行動をとり、幸いにもけがはありませんでしたが、揺れにより部屋の中はいたるところに物が散乱しています。他の家族は家の外に出ており、電話やインターネットが繋がらないため、状況がわかりません。

※長周期地震動とは、大きな地震で生じる、揺れが1往復するのにかかる時間が長い揺れの事で、免震構造のマンションであっても、大きく、長く揺れることがあります。この揺れにより、家具が転倒したり、大きく移動したりする危険があります。

★「自宅の中に留まる」人の想定される行動

地震発生から1時間後に「自宅の中に留まる」と回答した方の、3時間後の行動は、「おそらくそのまま自宅に留まる」が最も多く、63.1%となっています。

また、3時間後に「マンションの敷地の外に出る」と回答した方の、向かう先は、「避難所（学校等）」が最も多く、31.3%となっています。



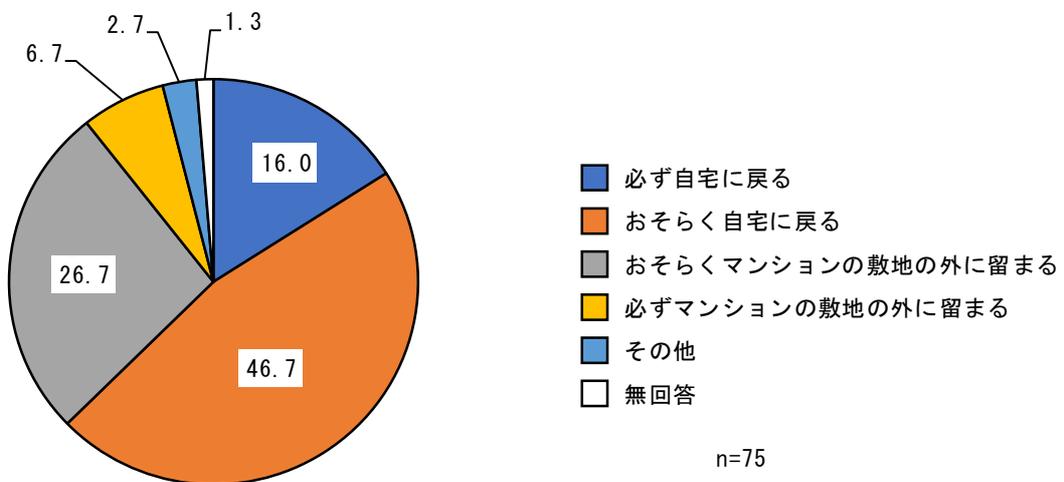
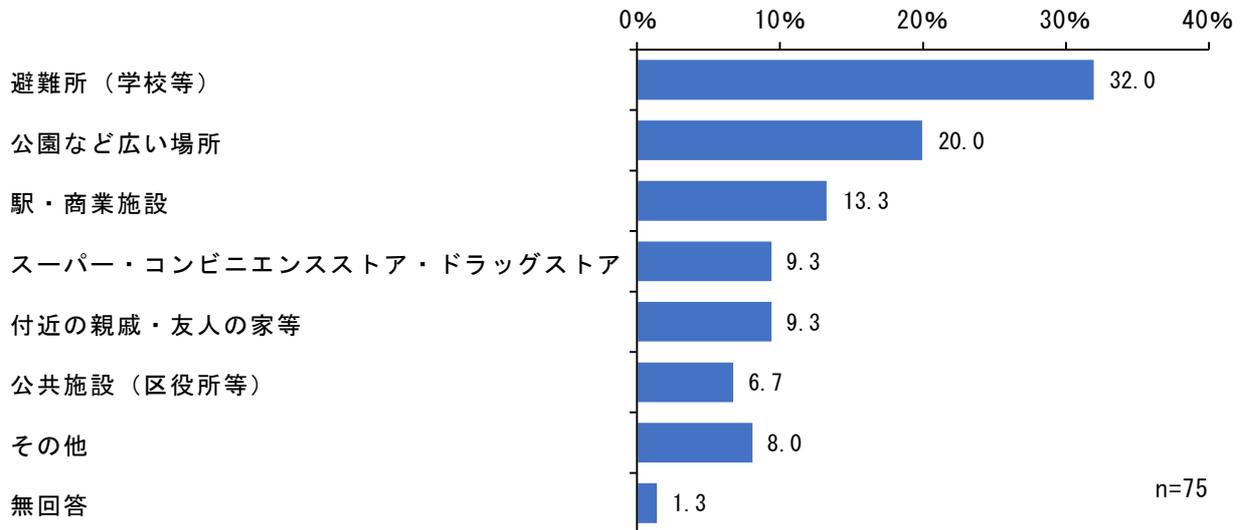
（以下の状況を想定した回答）

地震発生から3時間後、継続的に余震があり、エレベーターはいまだに停止しています。電話とインターネットは、不安定な状況ではあるものの外部との連絡はある程度可能になりましたが、学校の避難所はまだ開設されていません。夜になり、一夜をどこで明かすかを検討する必要も出てきました。

★「マンションの敷地の外に出る」人の想定される行動

地震発生から1時間後に「マンションの敷地の外に出る」と回答した方の、向かう先は、「避難所（学校等）」が最も多く、32.0%となっています。

また、一夜を明かす必要に迫られた場合、想定される行動は、「おそらく自宅に戻る」が最も多く、46.7%となっています。



（以下の状況を想定した回答）

地震発生から3時間後、継続的に余震があり、エレベーターはいまだに停止しています。電話とインターネットは、不安定な状況ではあるものの外部との連絡はある程度可能になりましたが、学校の避難所はまだ開設されていません。夜になり、一夜をどこで明かすかを検討する必要も出てきました。

「武蔵小杉駅周辺高層マンション住民の避難行動等に関する調査」速報版

【発行】 川崎市中原区役所危機管理担当
〒211-8570 川崎市中原区小杉町3丁目245番地
電話 044-744-3141 FAX 044-744-3346

【調査実施】 株式会社 物流科学研究所
〒330-0052 さいたま市浦和区本太2-2-36 SUNCREST 302
電話 048-887-3790